

吉川市立旭小学校

交流体験



第4、5学年

特色

東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、実際にパラリンピックに出場した方を講師に迎え、話を聞いたり、車いすバスケットボールを行ったりした。

車いすバスケットボールの楽しさを味わうとともに、障がい者に対する理解を深め、様々な壁を乗り越え挑戦し続ける姿を通して、努力することの大切さに気付くことをねらいとした。

児童の感想

はじめは車いすの操作に戸惑ったが、慣れるにしたがって、だんだん上手に動かすことができるようになった。講師の先生の「好きなことをたくさん見つけよう。」という言葉が心に残り、私は大好きなバスケットボールをもっと上手になりたいので、中学校ではバスケットボール部に入部して頑張りたいと思った。

成果

はじめは、車いすバスケットボールの迫りに圧倒されていたが、慣れるにしたがって、どの児童も楽しく真剣にプレーすることができた。また、片足のない講師の姿を見て戸惑っていたが、90分間共に語り、車いすバスケットボールを楽しむことを通して次第に打ち解け、障がい者とともに生きる社会づくりに、積極的に参画しようとする心構えが育まれた。